

乳がん

最新情報

あなたの不安と疑問に

答えます

必読保存版

日本人女性の12人に1人が罹るといわれる乳がんは、屈強な女子プロレスラーをも襲った。報道を見て、「私は大丈夫かしら…」と不安になった人は多いだろう。でも、その不安を解消するために何をすればいいのか。もし、乳がんだとわかったらどうすればいいのか——身近にあるはずの病、検診から治療法まで、これを読めば、つきあい方がわかります。

「検診を受けていても見つからないの？」
「がん家系でなくても気を抜けない？」
「どんな症状のとき、
どの治療法を選べばいいのか？」
「お金はいくらくらいかかるものなの？」^{ほか}

元女子プロレスラーでタレントの北斗晶（48才）が、乳がんで手術し、その後、リンパ節への転移と「5年生存率は50%」と宣告されたことを明かした。このニュースが女性たちに大きな衝撃を与えたのは、北斗の家族や身内にもがんになった人はいない、つまり遺伝ではないということ。そして、1年に1度、必ず定期検診をしていたのに、がんが進行していたということだろう。

「1番初めに何かがおかしいと感じたのは、うつ伏せになって床に転がった時でした。うつ伏せで、胸を圧迫したツとする痛み、年頭のまだ寒いも、身内にも無いし、毎年マンもエコー検査もその安心感からけの痛みだと、でした」（北斗）

昨年秋に検診時には直径2cm²あり、北斗摘出した。

日本人女性のは年々増加し、人以上、12人になるといわれて他人事ではな